

SONY

ソニーが(本社で)、はじめた未来。

Sony Global Headquarters
Tokyo, Japan | fact 08



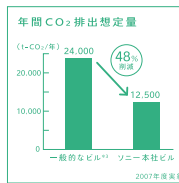
For the Next Generation
地球の未来を、グリーンに。ソニーのエコロジ

工場で培った省エネ技術を、新しい本社ビルにも応用。 CO₂を約48%^{*1}削減した最先端^{*2}の環境配慮型オフィスです。

*1: 1年間運用した場合のCO₂排出量を一般のビルと比較すると約48%の削減(ソニー調べ) *2: ソニー本社ビル「ソニーシティ」の熱源システムは、国内最高水準のCOP5.19を実現(2007年1月~2008年4月の実測平均値を算出 ソニー調べ)

下水処理水を活用し、ヒートアイランドの抑制へ

いままでは、工場や研究所、そしてモノづくりの中で培ってきた省エネのノウハウを活かした最先端の環境配慮型オフィスをつくりたい。そんな想いから生まれたのが、2006年10月に完成したソニーの本社ビルである「ソニーシティ」です。その最大の特長は、隣接する「東京都下水道局 芝浦水再生センター」の下水処理水を、ビルの空調用に利用していること。都市部では、ビルの屋上の冷却塔から排出される熱などによるヒートアイランド現象が問題となっています。そこでソニーは、水再生センターから放流されている水を活用して、冷却塔の代わりにしようと考えました。それは、民間企業としては、初めての試みでした。



年間約1万トンのCO₂を削減。これもさまざまな省エネの成果です

このビルには、他にも多くのアイデアが隠されています。たとえば、全面ガラス張りの構造。一見、デザイン重視に見える外壁にも、「ダブルスキン」と呼ばれる工法で二重のガラスを採用。実は、この2枚のガラスの間に設置されたブラインドが、太陽光をさえぎりながら、ガラスの間で発生した暖かい空気を、自然対流によって建物の外に逃しています。さらに、熊本工場で採用している最先端^{※4}の空調システムを導入したり、夜間に電力を貯めて昼間に活用する電力貯蔵用電池を採用したり。さまざまな環境配慮が施された結果、一般のビルと比べて約48%のCO₂削減という、予想を上回る数字を生み出しました。技術のソニーだから実現できた省エネの数々を、オフィスにも展開させながら、ソニーのつくる未来が、はじまっています。

*3: (注)日本建築学会の資料をもとに算出 *4: ソニー・エミコンデータ九州(株)熊本タイロソーセンターの冷熱源システムは、国内最高水準のCOP7.3を実現(中間性能/2008年7月発表 ソニー調べ)



ソニーはWWF(世界自然保護基金)が推進するクライメート・セイバーズ・プログラムに参加し、CO₂をはじめとする温室効果ガスの排出量を絶対量で減らす目標を掲げて、第三者機関の検証のもとに実施しています。

www.sony.co.jp/eco